

# 「輪島市住民復興調査」実施について

## — 少子高齢化、人口減少が進む社会での復興を考える —

社会防災研究領域 災害過程研究部門

大塚理加、塩崎由人、倉本啓之、李 泰榮、今泉賢吾、  
Bethany Meidinger、幸田悦子、永松伸吾

### Point

- 本調査は、被災後の暮らしの再建や地域づくりに必要な要因を明らかにするために、被災者の状況を把握するとともに、今後の災害復興と支援のあり方を検討することを目的とした。
- 被災後約2年での家族、健康、被害や復興の状況や生活状況、地域のつながりなどを尋ねた。
- 輪島市の18歳以上80歳未満の全住民14,300名に調査を依頼し、7,762名からご回答いただいた（回収率 54.3%）。

### 調査実施方法

調査対象者は、輪島市の住民基本台帳に記載された18歳以上80歳未満（2025年10月1日現在）の全住民14,300名であった。それぞれに調査票を郵送配布し、各自で記入（本人が回答可能であるが記入が困難な場合は代理記入）後、同封の封筒で郵送にて、国立研究開発法人防災科学技術研究所に返送するよう依頼した。

調査期間は、当初は11月1日から21日として実施したが、督促状送付時に月末までに延長した。

調査内容は、個人属性、被害・復興状況、健康や生活の状況、コミュニティ・レジリエンス、等であった。調査項目の詳細は、図2に示した。

回収状況は、宛先不明が274票生じたが、回収率は54.3%であった（図3）。

本研究は、国立研究開発法人防災科学技術研究所の倫理審査委員会の承認を得て実施した。



図1. 調査実施時のチラシ  
(制作：幸田技術員)

### 調査結果

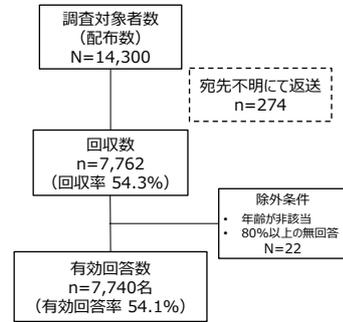


図3. 回収フローチャート

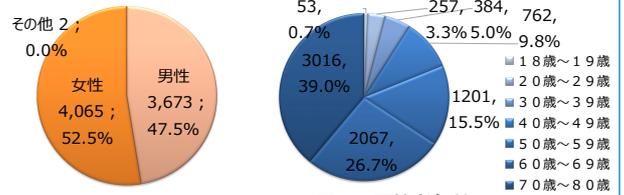


図4. 回答者性別

図5. 回答者年齢

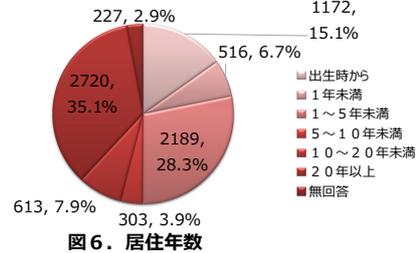


図6. 居住年数

#### 対象者の基本情報

- 性別
- 年齢
- 教育歴
- 世帯構成
- 就労(学)状況
- 居住地
- 居住形態など

#### 地域の文化特性

- おすて分け(頻度・内容等)
- ナチュラル・キャピタル(里山・畑・漁場の活用状況)

#### 被害・復旧状況

- 家屋(地震・水害)
- 人的被害(地震・水害)
- 生活復旧状況
- 支援制度の情報の入手しやすさなど

#### 被災後の経済状況

- 就労状況
- 主観的経済状況など

#### 被災後の生活環境

- 住まいの状況(居住地・居住形態等)
- 生活の利便性(買い物・医療・教育等)など

#### 被災地および被災後のコミュニティ・レジリエンス

- ① 経済発展(資源の量・公平性)
- ② コミュニティ・コンピテンス
- ③ ソーシャル・キャピタル
- ④ 情報・コミュニケーション
- 地域経済・リソース
- 資源配分の公平性
- 地域の課題解決能力
- 行政の信頼
- ソーシャル・ネットワーク
- 社会的信頼
- 地域への愛着
- 互助・共助
- 情報(支援制度)へのアクセス

#### 復興のアウトカム

- 主観的健康感
- 精神的健康
- 幸福感
- 生活満足度
- 住まいの満足度
- 主観的復興感(個人・地域)
- 将来の展望

図2. 調査項目の概要

### 今後の展望・方向性

今年度は、調査報告書の作成(3月中旬に発表予定)および、「輪島市住民復興調査 結果報告会」において、現時点での集計結果を発表する予定。

また、来年度以降は、被災者の健康や地域の復興への関連要因の分析等を進め、学会や論文での研究成果の発表等、学術的な知見を蓄積するとともに、研究結果を活用した地域住民や支援者へのワークショップ等を検討している。

調査報告書および「輪島市住民復興調査 結果報告会」については、「輪島市住民復興調査 特設サイト」にて発表いたします。

<https://nied-weblabo.bosai.go.jp/DRS/index.html>

